

超音波検査に活かす 水墨画の世界

日頃から超音波検査に携わりモノクロ画像を眺めていると、黒にも何種類の黒があり、白にも何種類の白があるようにみえます。

このコントラストによって、超音波検査では病態を把握し臨床に報告していますが、病態によっては患者さんの予後がわかり、複雑な心境になってしまうこともあります。

モノクロを利用して患者さんに喜ばれる何か別のことができれば、と考えるようになり、水墨画を題材とした小説を読み、これまで美術とは縁がなく未経験でしたが、水墨画を始めるきっかけとなりました。

添付画像は、約1年目に制作したオリジナル作品で、情報誌に掲載されて待合室や検査室に置いています。昨年には全国展で新聞社賞と優秀賞を頂き、水墨画を通じて患者さんや地域の方々と対話する機会が増え、同時に超音波検査に興味をもって頂く機会も増えて、嬉しく思っております。

